北海道 国際理解教育研究協議会 会報
第３７号
会長　山内　武道
事務局　高橋　承造
発行　平成9年2月22日

今こそ、強く求められている人権重視の教育

北海道国際理解教育研究協議会会長　山　内　武　道

民主主義の国・日本では、全ての人間の人権を大切にしなければならないことは当然のこととして考えられています。しかし、当然のことであるが故に、学校でも家庭でも十分に指導されていないのが現実ではないかと思われます。それが、経済的発展途上にある国々での日本人の傲慢な姿となり、また、国の中での“いじめや不登校”などの問題となって表れてきているのではないでしょうか……。

これまでの偏差値に偏った教育では　他に競り勝つことに重きがおかれ、他の立場や心情を理解し、人間として生きる権利を大切にする教育が欠けていたことを、長く教育に関わってきた者の一人として強く反省しているところです。

人権重視の教育は国際理解教育の基本であり、それなくして異文化理解の教育も成り立たず、日本の文化や伝統の尊重の教育も目的を達成することができません。また、人権重視の教育こそが、日本の教育が抱えている多くの問題を解決する重要なポイントであり、今　求められている最も大切な教育課題であると思います。

もう一度、今　私達が進めている教育を見直し、これからの地球社会で求められる“それぞれの考え方や生き方の違いを認め、それを大切にし共生していくことのできる人間の育成”を目ざしていかなければならないと思っています。

元来、日本人は他の立場や心情を考える心の奥深さを持っている謙虚な国民であったはずですが、急速な経済成長によってその素晴らしさを忘れつつあるのかも知れません。しかし、国民が一致協力して進める教育の力によって、必ずや日本人の素晴らしさを取り戻すことができると確信しています。そのことが、世界の国々から真の信頼と尊敬を受ける国・日本になることに結び付くと考えます。

その様な実情を認識し、私達は国際理解教育のいっそうの充実・発展を期して努力をしていきたいと考えているところです。

来る７月３０・３１日には釧路市において、国際理解教育の重要性を認識し、より充実した実践を目ざす全国の仲間が集い研究大会が開催されます。釧路地方国際理解教育研究会の皆様は、２月６日に全国大会のプレ大会を開催し、研究内容の充実のために懸命の努力をしています。多くの皆様のご参加を、心から期待しております。

全国大会プレ大会に参加して

釧路からの発信

研究部長　札幌市立真駒内緑小学校　中　村　　淳

冬本番を迎えた２月６日，釧路教育研究センター，北海道教育大学付属釧路小学校，付属中学校を会場にして，７月に開催される本会の全国大会のプレ大会が開催された。この会は，研究内容，全国大会において初めて実施される授業公開のための授業づくりの方略など本番にむけての研究の取り組みの様子が釧路地区の仲間から報告された。

この会には，全国の会長和賀満男氏，道の会長山内武道氏など釧路地区ばかりでなく全道から２００名を上回る仲間が集まり，全国大会成功に向けて活発な意見交流がなされた。そして，参加した全ての会員が，釧路地区の仲間たちの研究実践の素晴らしさと，開催にむけての準備の歩みの確かさを感じ，大会成功をあらためて確信した。

これは，研修部長の村瀬先生が中心となり，授業者の熱血漢・辻川先生，そして理論派・水野先生を中心に釧路地区の仲間が参加者全員を圧倒させる授業を提供してくれたことによると考えられる。二人の先生は７月の全国大会でも授業を公開することになっており，全国の仲間に「あ！これが国際理解教育の授業なんだ。」と胸踊らせる授業を提供してくれることになるだろう。

それでは，手短にプレ大会の内容を紹介することにする。

Ⅰ　研究主題　「広く世界に目を開き，豊かに・たくましく生きる児童・生徒の育成」

今までの研究から，国際理解教育は，子供たちに外国を紹介し，知識を豊かにすることではないことが明らかになった。我々は，国際社会に生きていく子供たちの「人間としての生き方や在り方」を考え，「生き方」を子供像を通して明らかにしていかなければならない。その為には，「自己と他のかかわり」の中で，人間の心の中から染みでた共感と，人間としての深いうなずきが必要である。

釧路大会では，「人間としての生き方」をより具体的にとらえ，どんな力を育てるのかはっきりしめしながら，授業のなかで具体化することにする。

Ⅱ　研究副主題　「国際性と共生の意識を培う国際理解教育の展開」

自然環境によって文化的背景の異なる国との共存・共生が求められる国際社会で，広い国際的視野に立って日本及び日本人として自己を確立しつつ，多様な異文化を受容し，変貌著しい社会にも主体的に対応しながら望ましい人間関係を保てる資質を養う。

・国際社会の足音が現実のものとして受け止められるように，学校教育や地域社会の中で働きかけを行う。
・人間理解に基づいた国際性豊かな人間＝世界の中の日本人となるための資質を身につけていく。
・学校，地域をあげて国際交流へ具体的な行動を起こす取り組みを進める。

Ⅲ　具体化の道

国際人が具備している能力を分析し，学年の発達に応じた具体的目標を設定して指導の指標とする。
（基本目標及び具体目標の設定，対応表の作成）

⇩

基本目標や具体目標を基準として教材を見つめ，指導計画を作成する。

1，　教科等における基礎・基本の獲得そのものが国際理解教育のねらいを達成する教材
2，　教材として扱われることによって空間意識に広がりをもたせることができる教材
3，　指導者の意識を開くことによって，気付きを与えることができる教材。

⇩

基本目標をもとに，授業の条件を整理し，授業像を設定する。

1，児童生徒の思いや問題意識を生かす	（積極的なかかわり）
↓	
2，児童生徒の多様な考えを生かす，方法別や問題別学習パターンを選択させる。	（豊かな想像） （方向付けの決定権）
↓	
3，個の学習，集団の学習を保証する	（個の学習を基本に）
↓	（価値判断・志向性）
↓	（修正・再構築）
4，学習の振り返り（自己評価）を盛り込む	（自省能力の育成）

Ⅳ　授業公開

1，北海道教育大学付属釧路小学校　1学年　体育　「ドッジホール」　指導者　辻川尚志

・今まで，あまり取り組みがなされていなかった体育，それも1年生の授業実践であった。勝つ為にはチームとしてどんな作戦があるのかみんなで考えることを通して，子供たちは自分なりに人間としての生き方を追求し，人と人とのかかわることの必然性を学んでいた。

2，北海道教育大学付属釧路中学校　2学年　社会　「世界と日本」　指導者　水野秀哲

・ディベートを取り入れ子供たちに「今の日本」を問う授業であった。意欲的にディベートに参加する子供たちは，発表された内容から，必要な情報を引き出し，これからの日本そして日本人のありかたについて自己の意見を確立していた。また，随所に友達の意見をもとに自分を広げている子供たちの姿がみられた。　紙幅の関係から指導案を掲載することができなかった。是非資料を求められ実践に生かしていただきたい。

Ⅴ　まとめ

全国大会は，1977年に12名から始まった本会の発足から21年目の大会である。北海道の国際理解教育の歩みを釧路地区の仲間が全道の仲間を代表して全国に披露する。7月の大会まで，日々の実践を通して釧路地区の仲間をしっかりと支え，全国の仲間に２１世紀を切り開く教育の方向性を発信して行こうではないか。では，7月３０日，釧路でお会いしましょう。

平成9年度在外教育施設派遣教員名簿

管内	所属	職名	氏名	派遣先		
				国名	日本人学校名	職名
石狩	新篠津村立新篠津中学校	教諭	和田　康彦	中国	上海	教諭
	札幌市立八軒西小学校	教諭	池田　幸一	米国	シンシナティ補習授業校	教頭
	札幌市立発寒南小学校	教諭	古里　和雄	スペイン	マドリッド	教諭
	札幌市立厚別北小学校	教諭	横川　隆	米国(グアム)	アガナ	教諭
	札幌市立山鼻中学校	教諭	山本登志一	トルコ	アンカラ	教諭
渡島	函館市立宇賀の浦中学校	教諭	岡崎　美加	フィリピン	マニラ	教諭
後志	小樽市立長橋中学校	教諭	佐藤　英治	韓国	釜山	教諭
	積丹町立野塚中学校	教諭	豊田　雅典	ドイツ	ミュンヘン	教諭
上川	旭川市立末広小学校	教頭	喜多　昭二	パラグアイ	アスンシオン	校長
	旭川市立広陵中学校	教諭	若本謙一郎	シンガポール	シンガポール	教諭
	旭川市立聖園中学校	教諭	堀　秀樹	アラブ首長国連邦	アブダビ	教諭
	旭川市立旭川第三小学校	教諭	柿森　淳一	ドイツ	フランクフルト	教諭
胆振	白老町立荻野小学校	教諭	工藤　信司	中国	大連	教諭
日高	浦河町立浦河小学校	教諭	松井　伸樹	フランス	パリ	教諭
十勝	帯広市立森の里小学校	教諭	佐藤　敬示	スペイン	バルセロナ	教諭
	音更町立音更小学校	教諭	野中　利晃	台湾	台北	教諭
釧路	釧路町立富原小学校	教諭	済藤　和彦	イギリス	ロンドン	教諭

派遣おめでとうございます！　3年間のご活躍を期待いたします。

帰国者報告会・派遣教員激励会のお知らせ

平成９年度在外教育施設派遣教員が，前記のように内定しました。来年度は，１７名の派遣です。つきましては，恒例の道教委との共催の「在外教育施設帰国者報告会」と本会主催の「在外教育施設派遣教員激励会」を，下記の通り開催いたします。時節がら，お忙しいとは存じますが，派遣者への激励や助言に多くの会員の方に出席していただきたくご案内申し上げます。お忙しいとは思いますが，激励会だけでも参加いただければと存じます。

平成８年度　在外教育施設帰国者報告会

日　時　平成９年　３月１０日（月）午後１時20分～15時30分
会　場　ＫＫＲ札幌
　　札幌市中央区北４条西５丁目　　電話　０１１－２３１－６７１１
主　催　北海道教育委員会・北海道国際理解教育研究協議会
日　程　12:30　受付　　13:00 ～15:30　開会式・研究協議
　　15:30 ～17:30　グループ別会議（派遣地域別　＊平成９年度派遣者も参加されます。）

平成９年度　在外教育施設派遣教員激励会

日　時　平成９年　３月１０日（月）午後６時00分～８時00分
会　場　ＫＫＲ札幌　　５Ｆ　『　丹　頂　』
　　札幌市中央区北４条西５丁目　　電話　０１１－２３１－６７１１
会　費　５０００円（立食形式）
申し込み　激励会の申し込みは，３月５日（水）までに，電話又はＦＡＸにて申し込んでください。
　　尚，３月５日（水）以降にキャンセルされる場合は，会費はいただきます。

連絡先―　澤　田　崇　　（北海道国際理解教育研究協議会　会計部長）
　　昼間　札幌市立篠路小学校　　電話　０１１－７７１－２２２１
　　札幌市北区篠路４条９丁目３－１　ＦＡＸ　０１１－７７１－１２９０

　　夜間　札幌市北区あいの里１条３丁目３の１８　電話　011-778-3620

＊派遣依頼が必要な方は，事務局までご連絡下さい。

»»»»海外勤務をおえて»»»»»»»»

ロス・アンジェルス補習授業校に勤務して

帯広市花園小学校　教諭　橋　場　仁

アメリカ合衆国ロスアンゼルスから帰国して，間もなく一年になろうとしています。最近マスコミを賑わしているロスアンゼルスですが，日本で考えているほど派手な街でもありませんし，危険すぎる街でもありません。確かに，映画産業の影響もあり，見た目の華やかさはありますが，多くの人々は落ち着いてゆったりと暮らしています。ＬＡの日本人社会や日系社会は，まるで時間が止まったように，古き良き日本の伝統や文化を継承しています。国内を騒がしている芸能人などの存在は，ほとんど知られていませんし，関心もないようです。ただ，野茂選手の活躍は，現地の日本人ばかりではなく，アメリカ人までも興奮させました。

世界の中心都市の印象があるＬＡですが，とにかく土地が広いためか，どこかのんびりとしています。輝く太陽のもとで，パームツリー（ＬＡの象徴）の並木道をオープンカーで走る映像をよく見ますが，まさにＬＡのイメージにぴったりです。私は，補習授業校に勤務したおかげで，ＬＡの隅から隅まで自動車で走ることができるようになりました。

さて，ＬＡの隅から隅まで走らなければならない補習授業校での仕事とは，どのようなものでしょう。私が勤務したロス・アンジェルス補習授業校は，現地名「あさひ学園」といい，およそ２６００名の幼児・児童・生徒が土曜日のみ通学してくる日本語教育施設です。広いＬＡのこと，ダウンタウンにある事務局を中心に，比較的治安のよい郊外に，６校の現地高校校舎を借用し学校運営をしています。（平成９年度より４校に統合の予定）この各校間の移動には，フリーウェイをフルに活用し，ＬＡの隅から隅まで走り回らなくてはならないのです。通ってくる子どもたちは，平日アメリカンスクールに通い英語の生活をしているため，年令が高くなるにつれて，あさひ学園での学習が苦痛になってきます。そもそも日本で一週間かけて学ぶ内容を一日で行うわけですから，日々の家庭学習が欠かせません。このような限られた時数内で教えるためのカリキュラム作成は，私たち派遣教員の大切な仕事でした。そのカリキュラムをもとに，現地で採用された先生方が実際に教壇に立って教えるわけです。（派遣教員は研究授業など特別な場合を除き，教壇に立って教えてはいけないことになっています。）現地採用の先生方は，日本で教員の経験がある方から，全くの素人の方までさまざまです。この先生方と信頼関係を構築できるかどうかが大変重要でした。ほとんどの方がアメリカ永住予定で，意志がはっきりしています。いい加減な態度は許されません。ずい分いろいろなことを学びました。現在，あさひ学園が抱えている問題は数多くありますが，今最も力を注いでいるのは，『習熟度別学級編成」の取り組みです。２６００名の子どもの中には，１～２年で日本に帰国しなければならない子もいます。又，滞米年数が６～７年と長引いてしまった子もいます。さらに，永住権を取得している家庭の子もいます。ここで問題なのは，それぞれの子（家庭）があさひ学園に求めるものが違っているということです。真剣に帰国に向けた学習をしに来る子，週一度の日本語による会話を楽しみにしてくる子，せめて日本語を忘れないでほしいという親の願いで通ってくる子・・・補習授業校の教壇に立つ先生方は大変苦労しています。伝わらない・・・伝えられない・・・教師も子どもも涙を流しながら，真剣に向き合っているのです。女優で歌手の西田ひかるさんは，あさひ学園出身です。補習授業校で学ぶすべての子がその辛さをバネにして，あのように明るく生き生きとした笑顔で活躍してくれることを，心から願っています。

ＩＥフォーラム

学びのための国際理解教育

１月札幌において「国際人権教育を語る会」が国際プラザにおいて行われた。子供から６０歳代の人まで，５０名以上という多くの人々が参加し，中には，海外旅行に行ってから「人権」について考え始めたという若い女性もいた。

「国際人権教育」というテーマから，椅子に座って講演を聞くのかなと思って参加してところ，予定時間の，ほとんど会場を動き周り，そして大きな笑いに包まれるという全く予想を覆す会であった。この会の講師粟野氏（北海道教育大学講師）は「人権」というややもするとつい難しくしてしまうテーマを簡単なゲームを通して当たり前の生活の問題へと置き換えをしてくれた。

会の参加者からは，「えぇ，これが人権教育なの？」という声もあがったが，学校での国際理解教育の実践において考えさせられることが沢山あった。特に，「教えない」態度である。粟野氏は，「人権教育とはこうであらねばならない。」と語ることは決してなかった。語るというよりは，「人権」を考えなければならない状況を示してくれたといったほうが良いかもしれない。

教師は，ややもすると教育というと何か絶対的な目標があるように考えてしまい，その迷路にはまり込み柔軟な思考ができないことがある。そんな時，「みなさんわかりましたか。」と分かることを求めず，状況にしっかり浸ることに集中させてくれた粟野氏と過ごした時間は非常に新鮮であった。そして，私達の実践が子供たちに新鮮な学びを作りだしているのかちょっぴり不安になった。

図書紹介

ＥＱ　こころの知能指数　　ダニエル・ゴールマン　「土屋京子訳」
講談社

著者紹介　カリフォルニア州生まれ，1974年，ハーバード大学大学院にて心理学の博士号を取得する。インドとスリランカにおもむきアジア文化における精神鍛練について研究。1984年から「ニューヨーク・タイムズ」紙でおもに行動心理学について執筆してきた。

全米では４２週間連続ベストセラーになったそうだが，日本においてもＥＱという言葉が流行語になり本屋にＥＱコーナーができるほどである。著者は，子供たちの人生の成功の鍵は，自制，熱意，忍耐，意欲，などをふくめた心の知能指数にかかっており，ＥＱを高めることによって，子供たちは持って生まれたＩＱをより豊かに発揮することができると主張している。

このＥＱは，人間の基本的な倫理感の基礎の上に立っていると考えると，異文化を持った人とかかわりを持った時必要である共感能力と他の人を思いやる気持ちの土台になると考えることができる。心の教育としての国際理解教育の重要性が指摘されているが，その点を心理学的に理論づけ，「たから必要なんだ」と主張点をはっきりさせてくれる本である。

・海外からの便り・

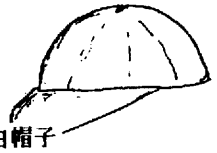
在外教育施設に派遣中の先生方よりお便りが届いています。

平成８年度派遣　オーストラリア・シドニー日本人学校　馬場　信明　先生（旭川市北鎮小学校在籍）より元気なお便りが参っております。

カンガール・ポスト１０号より　体育帽子の変更……来年度から紅白帽に替えてフラップ付きの白帽子を着用することになりました。

このことは職員会議等でもかなり討議されました。最終的には、児竜生徒の健康管理の視点からこのような結論になりました。その理由は、オーストラリアはオゾンホールのため、紫外線が強く、その影響として皮膚ガン等の発生率が高いことから、紫外線を防ぐためです。ですから、現時点でも、体育の時間は勿論のこと通学時や休憩時等の体育以外の屋外での活動でも「ノーハット、ノープレイ」ということで、帽子の着用を強く指導しています。この結論に達するまでに、従来の紅白帽の役割は何だったのかと改めて考えさせられました。また、運動会で、紅白が競い合うこと自体も、いつから始まったことなのかとか、その必要性は何かなど物事の根本を見つめ直す良い機会になったように思います。

今までの経験から、紅白帽子の利便性を感じてはいますが、児童生徒の健康管理が優先されるのは、誰もが認めるところです。



従来の紅白帽子

フラップ付きの白帽子

平成５年度派遣　ブラジル・マナオス日本人学校　河野　匡宏先生（北広島市広葉中学校在籍）
任期延長を含め４年間の派遣も後わずかになりました。学校評価を踏まえた新年度への引継ぎ作業に入いっているそうです。元気にご帰国ください。

平成７年度派遣　ブラジル・マナオス日本人学校　高木　司先生（附属旭川小学校在籍）より元気なお便りが参っております。アマゾンだより　２２号　より……どうしてもダメ！精密機械！……優秀な日本の精密機械もアマゾンの高温・高湿度さらに停電による電圧の増減などにワープロ・ビデオ・ラジカセなど９個の家電製品・精密機械がダウンしたそうです。優秀な日本のメーカーの想像をはるかにこえてる環境のようです。

平成６年度派遣　チリ・サンチャゴ日本人学校　久松　武夫先生（旭川市東陽中学校在籍）よりお便りが参っております。３年間の派遣を振り返り改めて現地理解の難しさ数多くの転校児童・生徒との別れ、全国各地から集まっている先生方とのふれあいなど多くの経験をお持ちになって帰国されるとのことです。

編集後記　来年度の全国大会までわずか５か月余りとなり釧路地区ではプレ大会を含めあわただしい日々を過ごしているのではないでしょうか。その他の地区での研究会などの予定がありましたら次号にのせたいと思います事務局までお知らせください。事務局では各地区の交流を通して会の活性化をめざしております。編集部でもさらに創造的な実践をめざした広報紙を作っていきたいと考えておりまので，これからも会員の皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。　＜　斎藤・石塚　＞